



第79号 2008年1月

発行：萩ネットワーク協会
〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内
TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458
萩市ホームページ <http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/>

主な目次

ふるさと文学散歩⑫ 榑崎勤	P4
ズームアップ「兼原信克」(東京都)	P6
見鳥は日本屈指の野鳥の宝庫	P7
夢追人「伊藤孝二」(萩市明木)	P12

橋本川沿いの萩・福祉複合施設かがやきの前に、この冬コハクチョウが飛来し羽を休めていました。越冬地の南限は鳥取の米子とされていますが、萩にもほぼ毎年飛来し、途中休息のため数日間見ることができます。近年は護岸改修などで数は少なくなりましたが、阿武川上流の霧口、中津江付近には多くの種類のカモ、サギなどが棲みつぎ、萩市民を癒してくれます。

萩が私のふるさと、

帰る場所はこちらにある



萩城下の

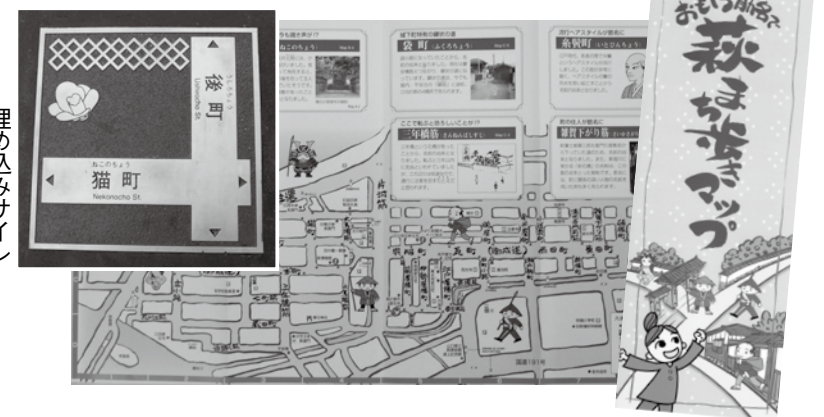
すじめい 「筋名」を 復活！

筋名まち歩きマップ発行
街路上に埋め込み
サイン設置

萩市では、「萩まちじゅう博物館構想」の一環として、江戸時代に萩の街路につけられた「筋名」を復活させようと、筋名を地図で分かりやすく紹介した「筋名まち歩きマップ」を11月に発行（萩博物館などで無料配布）、また、萩城下町や御成道の街路上57か所に筋名の埋め込みサイン（案内板）を設置し

ました。

現在、萩三角州内に約250の筋名が確認されており、それぞれに様々な由来があります。中でも同業の商人や職人たちが集まって住んでいた城下町らしく、「檜皮町」「小道具町」「鍛冶屋町」など職業名にちなんだものが多いのが特徴です。ほかに「水車筋」「勘場丁」など施設名にちなんだもの、「猫町」「高句麗井筋」「三年橋筋」など伝承にちなんだものもあります。最近ではあまり使われなくなっていました。



埋め込みサイン

松陰神社前に

新駐車場 オープン！

観光シーズン、正月の
混雑解消に期待

12月7日、松陰神社前に山口県が1995年（平成7年）か

ら整備を進めてきた駐車場や公衆トイレ、地下道などを備えた交通広場が完成しました。新駐車場は、観光バス、マイクロバスを含む大型車13台、普通車59台が収容可能。駐車料金は普通車が無料で、大型車は1回500円。神社境内の駐車場は普通車のみ利用となります。正月の松陰神社前は混雑が解消され、スムーズに初詣ができています。



新年のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長

萩市長 野村興兒



平成20年が始まります。旧年は政治情勢が大きく変化し、文字通り激動の一年。地方の自治体にとっても、合併後の厳しい財政運営に迫られる中、地方交付税の見直しや財政健全化法による引き締めが打ち出される手厳しさが目立ちました。一方で、ヒト・モノ・カネ・情報が、今まで以上に東京をはじめとする大都市に集中し、地方は高齢化と過疎化が同時に進行するなど、都市と地方の格差の拡大が大きな問題となりました。

明治維新から140年

本年は明治維新から140年という節目の年となります。19世紀末の世界史の奇跡と言われた日本の近代化の契機となった明治維新。この萩の地から青雲の志を抱いた多くの若者達が、明治維新、またそれに続くわが国の近代化に大きく貢献しました。我々はこの輝かしい歴史を踏まえ、萩市民憲章にもあるように、進取の気風を受け継ぎ、未来に向かって発展する、まちをつくりましょう。

近年、全国各地で歴史的文化遺産や伝統文化が次第に失われてきたと言われています。しかし、萩市においては、市民の皆様とともに歴史的遺産を守り、伝統文化の継承に努めておりま

末尾となりましたが、会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

山陰自動車道

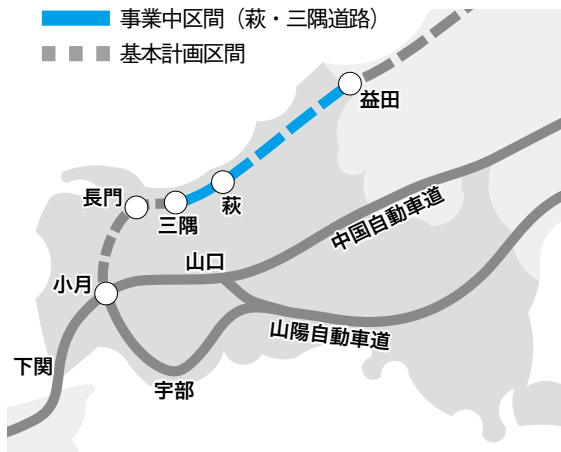
萩・益田間 道路整備の 中期計画素案 に位置づけ！

萩はこれまで高速自動車道からはずれた地域として辛酸をなめてきましたが、11月に国土交通省が発表した今後10年間の道路整備の方向性を示す「道路の中期計画（素案）」に、山陰自動車道の中で唯一整備の見通しが立っていないかった萩・益田間が明確に位置づけられました。萩市にとっては、平成8年に道路期成同盟会を創設して以来初

**萩・三隅道路
明石・三隅間今春開通**
萩・三隅間は、将来の山陰自動車道となる「萩・三隅道路」の整備が進められており、今春いよいよ三見明石・三隅間が開通する見込みです。国道191号の曲がりくねった急峻な鎖峠を通らなくても、長門方面に行くことができ、時間も相当短縮されると期待されています。

2011年の山口国体までには萩（椿）までが開通予定です。交通と情報の基盤整備は、将来の地域の振興発展に不可欠の課題です。
萩・三隅道路に直結して、萩（椿）から益田までのバイパス道路となる「萩東道路」が整備されれば、東西の道路ネットワークが確立され、地元住民の交通の利便性の向上はもとより、観光や物流といった経済の活性化につながるため、地元では萩東道路の早期整備が望まれています。

このため、平成18年5月に「萩東道路整備促進協議会」が設立され、官民一体となって萩東道路の早期整備に向けた取り組みが行われています。



△現在建設中の萩・三隅道路
(7つのトンネルと5つの橋りょう)

2007年 重大ニュース

萩市

●福栄地域の産廃処分場建設計画反対運動（2月）
24日に「萩・福栄 水と命を守る会」が建設反対総決起集会を開催し、市内をデモ行進。6月には、3万4198人の反対署名を県知事宛に提出

●国道262号萩バイパスが開通（3月）
萩の玄関口、萩有料道路から市街地を一直線で結ぶ国道262号萩バイパスが開通。これにより、萩市内の車の流れが大きく変わる。

●松下村塾開塾150年記念（8月）
・全国からシニアを対象とした「平成萩塾」、若者を対象とした「萩・維新塾」を開塾、計55人が参加

・萩博物館で企画展「長州男児の肝つ玉〜松門四天王と桂小五郎〜」を開催、「吉田松陰先生絵伝」を初公開
●山陰自動車道 萩〜益田間が道路の中期計画素案に位置づけ（11月）
国土交通省が公表した「道路の中期計画（素案）」で、萩・益田間が完成2車線として整備が位置づけられる

●「萩市景観計画」を策定し、景観条例を施行
市全域を対象とするのは県内初、景観景観区域や景観形成基準を定める

●世界遺産候補に再提案（12月）
世界文化遺産の国内暫定リスト入りを目指し、萩市から「萩・山口の近代化産業遺産群―非西洋世界における近代化の先駆け」を文化庁へ再提案

阿武町

●特定農業団体が次々に誕生（2〜3月）
町内では、農業法人が3法人、特定農業団体が6団体となり、農地の約54%をカバー

●100ゴールドフィンガーズジャズコンサートを開催（5月）
2年に1回の国内ジャズの大イベントを一昨年に引き続き町民センターで開催。国内各地から満員の観客が来場

●山崎古墳発掘調査始まる（10月）
福賀地区で、6世紀後半の山崎古墳の発掘調査が始まる。今年度は横穴式古墳の通路を発掘し多数の土器が出土、近くで箱式石棺も見られる

萩市出身の作家・編集者

榎崎 勤の「作家の舞台裏」

新年おめでとうございます。

今回は趣向を変えて萩出身の雑誌編集者、榎崎勤の作品「作家の舞台裏」を通して昭和文壇史のエピソードを楽しみたいと思います。

榎崎勤は明治34年に萩町で歯科医を営んでいた榎崎東陽の次男として生まれました。榎崎の曾祖父榎崎弥八郎は長州藩士で、幕末松下村塾に学び尊皇論を唱えて奔走しましたが、蛤御門の変で敗れ、藩の主導権を反対派が握ったことから所謂俗論派として逮捕され野山獄で処刑されました。因みに萩市土原の榎崎家の旧宅跡は現在公園になっています。

幼少期を萩で過ごした榎崎は父東陽が軍医を退役した後活動の場を旧京城に求めたことから、外地で教育を受けることになりました。この時期の韓国総監は伊藤博文でした。榎崎がああ榎崎弥八郎の曾孫だったことに驚かされましたが、

当の榎崎は「志士であつた」という家門への関心は薄く、大正14年京都の大学の文系に進学します。しかし間もなく退学して東京の新潮社に入り雑誌「新潮」の編集に携わりました。また小説家としても意欲を見せ「神聖な裸婦」「希望」など

多くの作品を執筆、「新芸術派」の一人として注目されました。戦後は読売新聞出版部に移り「読売評論」の編集等に関わり、多くの有名無名の文士と交流を深め名編集者として鳴りました。この作品は昭和45年、作家達との交流のエピソードをまとめたものです。徳田秋声、正宗白鳥、林房雄、尾崎一雄、宇野千代、尾崎士郎、井伏鱒二、宇野浩二、高見順、横光利一、川端康成、嘉村磯多、林芙美子、中野重治、国木田独步、田山花袋、太宰治、室生犀星、谷崎潤一郎、大宅壮一ら錚々たる顔ぶれです。

作品の中で、嘉村磯多については同じ山口県出身で尚

かつ同じ新潮社の社員だったことや文壇の親睦会「13人クラブ」に川端康成や尾崎士郎らと共に参加していたことから交遊が深く、ページを割いています。榎崎曰く「嘉村磯多は五尺一寸くらいの矮

躯で、細い銀縁の眼鏡をかけていた。いつも無地の細い縞柄の銘仙の着物を着ていたので、年寄り染みてみえた。」といひます。嘉村は、私小説家として知られ、宇野浩二が『屋の下』を知られざる傑作と激賞したことで脚光を浴びました。榎崎は「嘉村夫妻の借家は、間数の少ない小さな家なのだが、いつ訪ねても、広い寺のお堂のようにしんとしていた。奥さんのちとせさんは、小柄であつたが眼の涼しい、色白の美しい人で嘉村の作品『屋の下』の女主人公であつた。」と思ひ起こして綴っています。そして彼の最後にも触れています。「嘉村が病床についたのは昭和8年の春先ではなかったかと思う。(略)夏の終わりが、長

い病臥のために床ずれが酷く寝返りをうつことも容易でないと嘉村はかすれた声で訴えるようにいつた。雲の低く垂れた薄ら寒い初冬の昼過ぎ、ちとせ夫人が息を弾ませてきて、『嘉村がたつた今息を引き取りました』といった。すぐに嘉村の郷里の山口県仁保村の両親と当時霞ヶ浦航空隊に勤務していた海軍少佐の義弟のもとへ電報を打ちに行つたりした。医師の話では、左右の肺はすっかり侵されていて、いままでも生きながらえていたのは精神力だということであつた。」榎崎は嘉村のことを愛惜を込めつつ淡々と綴っています。嘉村磯多顕彰会(兼村晴定会長)は昨晩秋山口市で生誕110周年を記念して「偲ぶ会」を開きました。



ならさき つとむ 榎崎 勤 (1901~1978)

昭和初年代の新興芸術派の作家であり、雑誌「新潮」編集者でもあった。自由な言論活動や出版が困難となつていった大正末期から昭和戦前期にかけてその編集に携わり、昭和文学史にとって重要な小説発表の「場」であつた同誌を、ほとんど独力で守り続けた。主要な著作に、新潮社の新興芸術派叢書として刊行された『神聖な裸婦』(昭和5年4月)『相川マユミといふ女』(昭和5年10月)という二冊の小説集がある。戦後に上梓した回想録『作家の舞台裏』(昭和45年)も、昭和期出版ジャーナリズム史にとって重要である。

この中から「尾崎士郎、宇野千代の愛の巣」をご紹介します。

尾崎士郎は大正12年、26才の時岩国出身の女流作家宇野千代と結婚し、東京郊外の馬込村の百姓家を住居にしていたといひます。榎崎は「宇野さんを訪ねたのは小説依頼のためでしたが、そのとき宇野さんは、つぶらな黒い瞳をしばたたき、甘い声で遠慮しいしい『尾崎にも何か書かせてほしい』といひました。二人の小説家が同じ屋根の下に相寄つたことの宿命からの悲劇は案外『尾崎にも』という宇野さんのあたたかい言葉のなかに既に胚胎していたように思われます。」榎崎は作家同士の夫婦の感情の機微を鋭く分析しながらも、尾崎の側の視点も外しません。「私に文学眼を開いてくれた者は宇野千代女史であつた。何の自信もなく、ずるずると無為の感情の中を彷徨していた私の心眼に一点の光を投じてくれたものは彼女である。」と尾崎が後に書いた一文を

「作家の舞台裏」のページを繰ると「藤村、国木田独房雄の文学開眼」「林芙美子余聞」など興味深い小見出しが並びます。



平成22年開館の新・萩図書館長

甲斐 謙一郎さん (福岡県出身)

新図書館への思い

現在の萩図書館は1974年(昭和49)に建設されましたが、老朽化し、手狭になったため、隣接地に現在の2倍程度の大さきの新図書館が建設されます。現在、平成22年度の開館に向けて建設準備が進められています。隣接する中央公園は、平成17年に萩市民球場が取り壊され、現在は水と森を基調とした都市公園として整備が進められており、児童館が新図書館に併設されます。

萩市は、本が好きで、民間企業などで組織管理・運営の経験がある人を新図書館の館長に採用しようと、昨年9月に全国公募を実施し19人が応募。その中から新館長に採用された甲斐謙一郎さん(63歳)に、図書館にかける思いを寄稿いただいた。

日本のほかの都市と同様に、

萩市の財政も潤沢ではない中で、いかにして新しい時代が求めるものに応えられる、萩にふさわしい品格ある図書館を作っていくのか。課題はたくさんあるのですが、言えることは、市立の図書館として、市民に顔を向けたサービスを徹底し、誰もが入りやすく、利用しやすい、ぬくもりのある図書館にすること。そして、図書館が持つ人的、物的資産を積極的に市民に還元していくことに努めねばならないということだと思います。

同時に、萩の図書館は一般の公立図書館と異なり、吉田松陰をはじめとして日本の近代化に貢献した多くの人材をはじめ、萩の歴史的遺産の継承という役割の重要な担い手としての使命もあります。

引いています。樋崎は浮き沈みの大きい作家同士が夫婦であることの難しさを察していたと言えそうです。余談になりますが、宇野千代は岩国市川西の出身で平成8年に98才で亡くなるまで旺盛な創作活動を続けました。その間、藤村忠、尾崎士郎、東郷青児、北原武夫と結婚、離婚を繰り返す恋多き人でもありました。86歳になってからの作品「生きて行く私」がベストセラーになり話題を集めました。岩国の生家は保存会の人たちの努力で今も綺麗に保存され、落ち着いたモミジの庭が来訪者を迎えてくれます。

この時代の作家達は総じて台所事情が苦しかったようです。

太宰治が編集者である樋崎にあてた前借りの依頼状が紹介されています。「小説は30枚までとお約束申し、42枚ゆえ、きつと都合が悪くなったと拝察申します。60円で結構でございます。このハガキ、その受領証としてみんなに見せてもまた、後日発表されてもかまいません。事実と相違のこと一語もございませぬゆえ、ご休心くださいまし。私にしているいろいろ誤解の言葉風聞して淋しくなりません」あの太宰治も窮状を訴えているのです。

また中野重治の樋崎への手紙も、

事情の切迫を告げています。「これまたお願いの儀ですが、明日原稿料を頂上に上げたいと思えますので、それが小生に成功するようにお願い申し上げます。新潮社の金庫が開いているものかどうか至極心許ないのですが」といった具合です。中野は後年の短編「萩のもんかきや」で萩市民に親しまれています。このように編集者と作家の位置関係は編集者優位のこともあれば、またその逆もあったのです。

編集者樋崎勤が谷崎潤一郎に原稿の執筆を依頼して、はじめて「応諾」の手紙を貰ったときの喜びを紹介しています。『樋崎様(略)今後続き物は別として、その他の雑誌で最初に書くのはあなたの雑誌であります。この事だけは明確にお約束が出来ます。先ずはとりあえずお返事のみ。』私は胸をときめかし、繰り返してこの手紙を読んだ。このようなときめきは、

編集者のみの喜びというものではない」と。

萩図書館の森岡きよみ司書は「昭和前期の混沌とした時代に、今では大作家と言われる人たちの人間味溢れる実生活がエピソードで伝えられ興味がそそられます。それも萩に縁の樋崎勤の体験を通じた実話が嘉村や宇野や林芙美子といった県出身者にも及び、往時の作家事情がより身近に感じられ有意義です」と話してくれました。まさに言い得て妙です。戦後の文壇は抑圧を跳ね返すかのように活況を呈し、全集ものの全盛を謳歌するのですが、やがて多メディアの中に純文学は埋没傾向となりました。昨今は価値観の多様化、分衆の時代ですから、活字文化もまた新たな道を模索することになるでしょう。

(高井 誠 エッセイスト 日本ペンクラブ会員)



「作家の舞台裏
一編集者のみた
昭和文壇史」

昭和45年
読売新聞社発行



曾祖父の樋崎弥八郎旧宅地(土原)

樋崎弥八郎は、文久二年(1862)より久坂玄瑞らと尊攘活動に身を投じた。その年勅使として東下した三条実美に供奉した。禁門の変に藩主の冤罪を晴らすために参軍し、そのため俗論派政府によって野山獄に投ぜられ刑死した。享年28であった。

萩市見島は、 日本屈指の野鳥の宝庫

見島での探鳥会の世話人・萩カワセミクラブ事務局長を務める三谷栄治さん（萩海運(有)勤務）に、見島の野鳥についてお話をお聞きしました。
（野鳥の写真を16ページに掲載）

見島は渡り鳥たちの メイン中継地

一般の方にはあまり知られていないと思いますが、バードウォッチングの世界では、長崎県対馬・石川県舩倉島と並び、ここ萩市見島は日本屈指の渡り鳥観察ポイントなのです。

概ね日本では約550種類の野鳥が観察確認されていて、見島ではそのうち約330種類が確認されています。見島のバードウォッチングの特徴は、①渡りの中継地となるため、330種類と観察できる種類がずばぬけて多いこと。②野鳥の個体数が多いので観察できるチャンスが多いこと。③ヤマシヨウビン・ヤツガシラ・シマア



家にとって見島はあこがれの地で、毎年実施する探鳥会には首都圏や関西圏からも多くの愛好家が見島に集います。また

に見島のバードウォッチングは、全国区なのです。見島での探鳥・観察会は今から40年以上前に始まり、野鳥の会有志数名とそのグループが見島に毎年足を運び、地道な調査・研究を重ねてきました。毎年開催している定期的な探鳥会のスタートは15年前から、平成19年度は4月21日（土）・4月22日（日）に実施、約130人の参加でした。

奥の深い野鳥の世界

私自身が見島バードウォッチングに関わるようになったきっかけは、見島探鳥会のお世話役を引き受けたことから。本業が萩海運の職員ですので、島に渡る乗船客を増やす手段として担当することになったのです。同時に、島に渡った野鳥愛好家のマナーアップを図ることも私の大きな役割でした。言ってみれば野鳥には門外漢であったのですが、愛好家の皆さんと一緒に島を巡り、実際に野鳥を観察し、専門家の先生の興味深い話を聞くにつれて、いつしか野鳥観察の虜になってしまっていました。もともと若い頃から写真を撮っていたことも、この世界にのめり込むひとつの要因だったように思います。



（財）日本野鳥の会会長の柳生博（俳優）さんも見島でバードウォッチング

ています。それにしても、奥の深い世界です。外から見てみると、野鳥を探してスコップ片手に野山を歩きまわり、そして写真に収めるといったように見えますが、たとえば「A鳥はB種類の毛虫が好物で、B毛虫はこの時期に、C植物に集まる。だからA鳥を見よう」とすれば、C植物の群落を探せば「良い」といったように野鳥だけでなく、その食物連鎖につながる昆虫や植物を知ることになるのです。

同時に野鳥の生態はいまだ多くの謎に包まれています。特に渡り鳥の場合、陸上生物と違って海を越え非常に広範囲に移動、なかなかそのライフステージが掴めないのです。その解明のためにも、とにかく記録し、データ蓄積することが大切です。私自身も普段からカメラと観察記録手帳を携帯し、こまめに記録するようにしています。今回の「バードウォッチング2008 in見島」も例年通り、4月のGW前週の土日に開催します。野鳥に関心のある方はもちろん、初めての方もきっと野鳥の世界のすばらしさを体感していただけると思います。特に、お子様にとつて、このイベントは素晴らしい体験となると思いますので、ご家族連れでのご参加をお待ちしております。（談）

問い合わせ

◎「バードウォッチング2008 in見島」見島観光協会（萩市見島支所内）担当：天賀（てんが）

0838・23・3311

◎萩カワセミクラブHPアドレス
<http://www.hagineta.ne.jp/users/kawase3/index.htm>
※写真提供：三谷栄治

外務省総合外交政策局総務課長

兼原 信克 さん



東京都在住 阿武町奈古出身
昭和 52 年秋高校卒(29 期) 48 歳

私の近況

早いもので、萩高を卒業して、郷里を離れてから、四半世紀以上が経ちました。現在は、外務省の総合外交政策局という日本の外交を取りまとめる部局で働いています。総理大臣や外務大臣の外遊日程を調整したり、外交関係の演説を起草したり、部内の意見が対立する時には調整役を務めるのが仕事です。総理大臣外遊の折には、職責上、お伴することになってるので、小泉総理とはモンゴルや

カザフスタンなどへ、また、安倍総理とはインドやオーストラリアなどへ、御一緒させていただきました。

最近で、一番大変だったのは、昨年、安倍総理が中国を訪問しておられる最中に、北朝鮮が核実験を強行した時です。丁度、北京空港で、次の訪問地であるソウルに赴くために政府特別機に乗ろうとしている時に、ニュースが飛び込んできました。安倍総理は、ソウルで直ちに記者会見を開いて核実験を批判され、また、ソウルの日

本大使館からブッシュ米国大統領に電話をかけて協議されたりしました。安倍総理の凛とした厳しい表情が印象に残っています。

萩の思い出

私は、幼稚園を萩光塩学園で、小学校と中学校を奈古で、高校生活を萩高校で送りました。北長門国定公園の美しい島々や海岸を毎日見て過ごしながら、郷里の萩や奈古の山畑を遊び回って幼い時代を過ごすことができたことは、とても幸せなことだったと思います。

萩に戻ると、よく松陰先生の祀られている松陰神社にお参りをします。最近、先生の野山獄や松下村塾での講義記録「講孟余話」を読みました。安政の大獄で30歳に満たないまま天折された先生ですが、先生の文章には、聖人の様な優しさ、純粹さ、静けさを感じます。明治維新を見ないままに亡くなられましたが、王道を忘れて覇道に走りつつある富国強兵策に警鐘を鳴らし、また、天皇の人格化を戒めておられます。松陰先生は、幕末、明治という狭い枠を超えた傑出した思想家だと思っています。

若き松陰先生の感化を受けた長州の志士達が、明治維新の偉業を成し遂げました。私も、長州人の端くれとして、その百万分の一でも、日本国のお役に立ちたいと思う近頃です。

萩への一言

平成19年は、私達の萩高第29期が東京指月会(萩出身者の同窓会)の幹事でした。毎年、丸の内にある日本工業倶楽部で開催され、いつも200人近い同窓生が集まっています。野村市長にもご出

席いただきました。御高齢の方々も、沢山いらっしゃいました。御来席の方々の萩に抱いている高い誇りを感じて、こんな素晴らしい郷里に生まれたことを、しみじみとありがたいと思いました。萩を出た者は、みんな萩を応援していますよ。

阿武町

人から人へ、笑顔と夢を未来につなぐ…
ふるさとのオリジナル
カレンダーを全国に発送!

「故郷は心のオアシスです。今度はどうな場所かと心を踊らせ、めくってゆく時の楽しみが年末の忙しいひと時を癒され元気をもらっています」。これは、町が制作している「阿武町ふるさとカレンダー」を購入していただいている町出身の方からのご意見です。

ふるさとカレンダーは、町民の方には町の良さを再発見、全国

の町出身者の方には、ふるさと阿武町のことを懐かしんでいたと毎年制作しているもので、今回が18作目。平成20年版は、『人から人へ・笑顔と夢を未来へつなぐ』をテーマに世代や地域を超えたつながり受け継がれるものの大切さをアピールする写真を掲載。昨年の暮れ、町内の全世帯と全国から予約のあつた約500人に発送しました。



在庫はわずかです。購入を希望される方は1部500円(送料込)で販売しますので、阿武町役場総務課(08388・2・3111)までお早めに。



会員投稿

9月25～27日
萩商36会
北海道

角谷正人さん
(萩商36年卒、
千葉県松戸市
在住) からの
投稿です。
毎年恒例の
同窓会は、9
月25日から27
日まで、北海道へと総勢32人が
旅してきました。

25日に千歳空港へ集まり、早
速観光バスに乗り、車中は再
会の喜び、積みもった話で
ワイワイガヤガヤ。地獄谷を

見学した後、宿泊する洞爺湖温
泉へ。夕刻9時から名物の洞爺
湖ロングラン花火大会が始まり、
夜空を彩る情景に皆感激し余韻
さめやらぬ旅の初日でした。

翌26日は、昭和新山、小樽運
河などを見学後、札幌のホテル
へ。夕食のサッポロビール園で
は、生ラム肉のジンギスカンの
食べ放題、できたてビールの飲
み放題に皆まさしく「牛飲馬食」
そのものでした。

最終日は観光とゴルフ組に分
かれて行動。無事北海道を後に
し、大変有意義で愉快な2泊3
日の旅行でした。来年は九州方
面へと決まり、今から楽しみに
しているところです。(紙面の
都合上、原文を省略しています)

萩高校文化講演会

C・W・ニコル氏

10月24日

萩高9期卒業50周年
萩高校体育館 (萩市)

テレビや講演など
を通じて環境問題に
取り組んでいる作家
のC・W・ニコル
氏(67歳)を招いて
文化講演会が開催さ
れました。卒業50周
年を迎えた萩高9期
同期会(昭和32年卒、
代表 山本貞壽)が
支援し、実現したもので、夜は
千春楽・味楽亭で、全国から約

100人が参加して盛大な萩高
9期同期会が開催されました。
ニコル氏は「誇り高き日本人
でいたい」をテーマに講演。14
歳から格闘技として柔道を習っ
たが、練習は一日中礼ばかり。
そして、分かったのは「一番の
護身術は礼」。「君たちの年、17
歳から極地探検など世界中を駆
け巡ってきた。自然は放置する
だけではだめ。保護することが
大切」と、身振り手振りを交え
流暢な日本語で、約800人の
聴衆に語りかけました。



10月6日
萩商41会還暦祝
萩しーまーと(萩市)

還暦を迎えた萩商
業1期生(昭和41年卒、
当時4クラス)が「今
年度で萩商業がなくな
ってしまおう。自分
たちが萩で生まれ
育ったあかしを残そ
う」と、シタレザク
ラ4本を道の駅「萩しーまーと」
に植樹し、除幕式と同窓会を開
催しました。「桜の木は誰にで
も好かれる木。孫を連れて皆で
見に来たい」と41会会長の土井
季夫さん(越ヶ浜)。

◎出席した洲崎吉博さん(大阪
府寝屋川市) からのお便り
「還暦同窓会に出席し、42年
ぶりに再会する同級生に感激
しました。恩師の先生も3人出

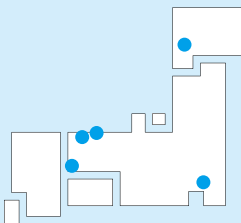


席されて、しばし高校3年生に
戻っていました」

吉武正利さん(越ヶ浜中33年卒、
静岡市在住) からの投稿です。
私は越ヶ浜中学を卒業して熊
本の鉄道高校に進学しました。
熟年になって「ふるさとのこと」
をいろいろな視点から詩にして
みました。また、越ヶ浜の歴史
を紐解いて「ふるさとの歴史」
を書きました。この出版記念と
して平成19年2月野村市長にご
出席いただき、笠山に桜の植樹
をしました。

◎吉武さんは、「吉 武造」の
雅号で詩を詠んでいらつしやい
ます。ふるさとや人生について
詠んだ詩と、越ヶ浜の歴史をま
とめた「熟年の応援歌」を出版
されました。ご希望の方は、吉
武さんまで(054・246・8
334)。





★事務局からのお知らせ

クラス会、同窓会、皆さんからの投稿記事をお待ちしています。
萩ネットワーク事務局まで、お送りください。
また事前にご連絡いただければ、資料をお送りします。

東京たちばな会、11月10日
からたち会関東支部合同総会
ルポール麹町(千代田区)

08年3月には最後の商業・工業生徒が卒業、09年の商工卒1期生までには新しい同窓会を設立したいと、挨拶がありました。

11月22日
たちばな会・からたち会下関支部、巴城会総会
下関唐戸魚市場株式会社(下関市)

今年は会場を彦島に移して開催。懇親会ではフグ刺し、フグ鍋、フグのひれ酒と毎年恒例のフグ料理のオンパレード。参加者はこの豪華料理を堪能しました。



萩工業・萩商工ラグビー部 6年連続13回目の花園へ

・萩工業としては最後の出場、萩工業・萩商工ラグビー部は、11月23日、山口県大会決勝で大津高校に完勝(48対0)し、花園ラグビー場(東大阪市)で行われる「全国高校ラグビーフットボール大会」に6年連続13回目の出場を決めました。

3月に最後の3年生が卒業するため、萩工業としては最後の全国大会。阿武祐馬主将は「チーム一丸となって、先輩たちを超える記録を目指します」、田村耕太郎監督は「初戦突破、8強を目指したい」と強い決意を語りました。全国大会1回戦は、12月28日(金)、秋田県代表の秋田中央高校と対戦。前回2回戦で秋田県代表(シード校)に敗れており、今回は雪辱戦です。



阿武祐馬主将(三見中出身)

★萩高校も健闘

萩高校は、11月11日の準決勝で、萩工業・萩商工と対戦。後半、萩高校が点差を4点にまで縮めました。結局8対17で敗れ、善戦及びませんでした。

全国高校駅伝

萩出身の4選手
京都・都大路を力走



△タスキをつなぐ
(2区寺田君から3区岡村君へ)

京都・都大路を駆け抜ける年末の風物詩・全国高校駅伝が、12月23日行われ、山口県代表の西京高校(山口市)の選手として、7区間のうち萩出身の4人が出場しました。出場したのは、刀祢健太郎君(主将、1区、萩西中卒)、寺田裕成君(2区、萩東中卒)、岡村悠平君(3区、明木中卒)、篠原義裕君(6区、萩西中卒)。特に3区岡村君は区間15位の8人抜き。チームは24位でしたが、全員精一杯走り抜きました。



道の駅・しーまーと内にオープン!

道の駅・萩しーまーと内に、田万川地区を中心とした萩産の豊かな果物・野菜をPRする目的で、生絞りのジュースバーがオープンしました。梨・林檎・キウイ・桃・ぶどう・スイカ・メロンなどなど、四季折々の旬の果物や野菜を素材に、ここでしか味わえない地産地消のフレッシュジュースを提供してい

ます。メニューのプロデュースは野菜ソムリエが担当、美容健康にも気を配っています。価格は一杯300円〜350円とお手頃、10月27日のオープン以来、お客様にも大変好評です。出店したのは、田万川地区に本社を持つ豊田物産(株)。
■問い合わせ 道の駅・萩しーまーと ☎0838・24・4937

若者が定着する元気な島

大島がヘラルドトリビューンで紹介

萩市の大きな課題は、若者の定住をどう図っていくかです。多くの若者が高校を卒業し、進学・就職のため転出して行きます。特に中山間地域では、高齢化とともに若者の転出が目立っています。

島しょ部という厳しい環境下にありながら、大島では、先進的な投資と地域の力を合わせたの努力の結果、水産の水揚げが増加し、多くの若者が、Uターン・Iターンしています。



△9月24日の島の大運動会（新聞掲載写真）
600人の参加者のうち若い層が若い層が半分以上を占めた

●英字新聞「ヘラルド・トリビューン」(10月31日)

世界の高級紙「インターナショナル・ヘラルド・トリビューン」からの世界共通の国際記事と、朝日新聞の国内記事で構成される日刊英字新聞。読者は日本人と外国人がほぼ半々。



Fishing boats at Oshima's harbor. Currently, 75 residents. In fiscal 2006, the fish had

人口が1000人弱の大島。毎年10人前後の赤ちゃんが生まれており、人口に占める出生数の割合は福岡、北九州市並み。また、約200人が漁業に従事しています

が、漁業従事者のうち50歳未満は50%で、全国平均の31%を大きく上回る「元気な島」です。

萩市や山口県などは2002年度から、40歳未満を対象に大島への新規漁業就業者を公募しています。この5年間で独身者9人と7家族24人がUターンやIターンなどで移住して漁業を始めました。

財団法人・日本離島センターは「この規模で、これほど多くの若者が漁業のためにやってくる島は知らない」と驚きます。

移住者を引きつける魅力の一つが、4社が営む中型まき網と漁協が運営する定置網の固定給制度です。

まき網は月20万円。水揚げに応じた歩合も加え、70万〜80万円になる月もあります。定置網は15万8000円ですが、勤務は午前3〜7時。昼間は潜水漁でアワビやウニを取り、多い人は月に20万円を稼ぎます。

(朝日新聞9月29日夕刊から抜粋)

幕末期の商人

梅屋七兵衛が天声人語に

11月16日の朝日新聞一面の「天声人語」で、長州藩の商人梅屋七兵衛についての記述が掲載されました。

明治維新の前夜、長州藩の豪商、梅屋七兵衛は身分を隠して長崎に向かう。藩の密命を帯び、倒幕の武器を仕入れるためだ。長崎から上海へと渡り、1年半後に七兵衛が持ち帰った英国製の鉄砲千丁は、日本の近代をこじ開けた。

守屋前防衛事務次官の、軍需商社の元専務との癒着問題について書かれたもので、以下は「歴史の節目に時代を回すこともあった武器商人だが、今は事情が違ふ・・・」と続きます。

●梅屋七兵衛とは

1821年浜崎で生まれ、造り酒屋を営んだ商人で、毛利公の武具方の調達もしていました。

木戸孝允などの志士と交流があり、1865年に藩の密命を受け長崎に鉄砲千丁を買いに行くことになりました。イギリス人と鉄砲を買い契約を結びましたが、長崎奉行に捕まり尋問を受けた際、用意していた偽の通行手形を示し、自分は芸州（現在の広島）の使者で



梅屋七兵衛旧宅 ☎0838・24・3737
(浜崎町257、住吉神社近く)
無料で一般公開されています
休館日 水曜日、12/29(土)〜1/5(土)

あると何ら臆する様子も見せずに主張しその場をおさめました。しかし身の危険を感じた七兵衛は上海に逃れて1年間一人で暮らした後、鉄砲千丁とともに帰ってきました。この鉄砲により長州藩が戊辰戦争に勝ち抜くことができたといわれています。

維新後は京都で商売をしますが、晩年に萩に戻り、浜崎にある屋敷で過ごしました。

●梅屋七兵衛旧宅

七兵衛が晩年に過ごした屋敷は、平成17年に萩市が古民家再生モデル住宅として改修し、外観は伝統的な姿を保ち、内部は現代生活に適応した住宅となっています。現在は、浜崎伝統的建造物群保存地区への観光客や住民の活動拠点の場として活用されています。



メルキオール熊谷元直が 紹介されています

「ペトロ岐部と 一八七殉教者」 出版!



キリシタン殉教者記念公園
(萩市堀内)にある記念碑

萩ネットワーク2007

年5月号で、萩のメルキオール熊谷豊前守元直が福者に選ばれたことを紹介しましたが、熊谷元直を含む殉教者たちを紹介した「ペトロ岐部と一八七殉教者」が出版されました。この本の中で、元直とキリスト教との関わりが紹介されています。

熊谷元直は、備前高松の城主で、毛利家の重臣でした。1587年キリスト教に受洗

しますが、小田原戦役、2度の朝鮮出兵など戦に明け暮れる元直に祈りの力はなく、信仰はかすかな種火だけになってしまします。しかし、95年淀川の工事のために出向いた大坂で第二の回心。

一方、関ヶ原の戦い後山口へ移った毛利輝元はキリシタン弾圧を開始します。元直は

信者たちの保護者となり、主

君に対しても公然と信仰を表明したため、萩城建設絡みの人夫による砂利窃盗事件を口実に処刑されてしまいました。1605年8月、切腹を拒んだ元直は、ロザリオと縄を持って時を待った。

「イエスの受難をよく黙想する人だった」と、報告書は殉教の記録を結んでいる。享年50歳。

「ペトロ岐部と 一八七殉教者」

発行 カトリック中央協議会
03・5632・4111



A 5判/68ページ
価格 368円

高杉晋作の好物は?

TV「笑っていいとも!」に
一坂太郎さん出演



12月5日、フジテレビ昼の人氣番組「笑っていいとも!」で、高杉晋作が問題として取り上げられ、萩市特別学芸員の一坂太郎さんが出演しました。

登場したのは水曜日のコーナー「偉人たちの大好物」。司会のタモリさんが高杉晋作について、「江戸末期、吉田松陰の松下村塾の門下生として伊藤博文らと学ぶ」「坂本竜馬が懐に忍ばせていた短銃は晋作が送ったもの」と紹介。その後、「高杉晋作が大好物だったものは何でしょう」とクイズが

出されました。ヒントとして、鯛の鰭が好きだったこと、江戸に来て一番おいしいと言ったことが挙げられ、回答者たちは「うなぎ」「あなご」などを答えました。

正解はなんと【マグロの刺身】。高杉晋作ゆかりの人物として出演した一坂さんは「当時、江戸ではマグロを食べることが流行っていたが、地方ではあまり食べられていなかった。江戸に出てきた晋作が流行にのって食べたのでは」と解説しました。

クロマグロ 釣ったぞー

～松方弘樹さん



◀11月14日、
左は赤崎望さん

11月、俳優の松方弘樹さんが萩市見島に滞在し、マグロを釣り上げました。釣り好きで有名な松方さんは、見島の豊かな漁場を好み、毎年マグロを追いかけて見島へ来られます。以前に180kgのマグロを釣り上げたこともあるそうです。松方さんが見島に來られた際に宿泊する

い続け、14日以内に120kgのマグロを釣り上げました。久しぶりのマグロに大喜びされていたが、少し残念そうな表情も。その理由は、松方さんの目標は200kg以上のマグロを釣ることだからです。

赤崎旅館のご主人赤崎望さんによると、「マグロを釣り上げるのは、知識や経験だけでなく運も必要で、ベテランでも釣れないときがあるほど難しい。」

今年は11月8日から滞在し、時化以外の日は漁に出てマグロを狙

このときはこれで一日帰られ、11月20日に、今度はテレビの取材で友人の梅宮辰夫さんと見島に來られ再度マグロ漁に挑まれました。このときの漁の様子はぜひテレビでご覧下さい。

■番組名「魚王」

■放送予定日 1月16日(水) 午後7時～9時

■放映局 全国TBS系列各局



山口市方面から 262 号線を萩方面に走ると佐々並地区に「道の駅あさひ」、萩有料道路の手前に「農産物加工販売所つつじ」がある。今回は、その2つの施設の店長を兼務する伊藤さんにお話をお聞きした。



農産物加工販売所つつじ、道の駅あさひ 店長

伊藤孝二さん (萩市明木在住 41 歳)

1966 年 (昭和 41 年) 1 月、萩市明木生まれ。明木小・中学校から山口農業高校に進学。83 年、萩酒類販売(株)入社、88 年に J A 明木農協に勤務し、2006 年 1 月から(株)旭開発に入社、「農産物加工販売所つつじ」「道の駅あさひ」の店長を兼務。趣味はゴルフとバイクツーリング。愛車はハーレーダビットソンで阿蘇まで往復 600km の日帰りツーリングを楽しむ。

小規模な日曜市からはじまった販売所「つつじ」

2 つの販売所の運営主体である(株)旭開発に入社したのが平成 18 年 1 月。両方かけもち店長ですので、毎日行ったりきたり、走り回っています。

ここ「つつじ」が現在の姿になったのは平成 16 年 5 月、それまでは、直売所棟の横に今もあるトタン葺きの建物で約 10 年間営業していました。さらにルーツを辿ると、平成元年に近所の菅蓋地区の数名の農家が、道路脇に小さな小屋を建て、小規模な日曜市として始まったことです。当時の売上げは 1 日に 4〜5 万円、今と比べると小さな売上げですが結構好評で、早朝より行列ができたとのことでした。

数名で始まったこの直売所も、今では約 150 名前後の生産農家さんが出荷者協議会を結成して経営参加、それほど大きな地域ではありませんので、地元の農家さんがほとんど参加する直売所ということができます。

売り物は、何と言っても地元農家が丹精込めて作った四季折々の新鮮野菜とその加工品。特にこれ！という特産品が無いのが弱点ではありますが、野菜果物すべて露地モノで、少量多品種の品揃えが特徴だと思っています。話題商品としては、手作り豆腐や明木饅頭があります。数量限定生産・販売です。ほとんど午前中に売り切れてしまう人気商品となっています。特に明木饅頭は土曜日のみの 10 パック限定。

もつと量産して売上げを確保するようになっている方から指摘を受けていますが、現在その製法を製造所のお嫁さんがお姑さんから引継ぎ中、あせらずじっくりと伝統の味を引き継いで頂くことが大事、当面販売数を増やすことは考えていません。

地域の活動拠点として、地域ぐるみで盛り上げていきたい

地元萩市から来られるお客様を中心に、防府市・宇部市・山陽小野田市など県央部各都市のお客様も多くなり、直売所の売上げは開業年から毎年 10% 以上の高い伸び、4 年目となる今年度も目標金額をクリアできそうです。萩市の南の玄関口として、「道の駅あさひ」ともども、来訪されるお客様に新鮮で安全な食材を提供する拠点として、そして心優しい地元住民とのふれあいなど、田舎ならではの良さをどんどん発信していきたいと考えています。

今後の課題としては、やはり生産農家の高齢化。現状の出荷者の平均年齢は概ね 70 歳以上で、今後、直売所を未来に向けて維持継続していくためにも、運営体制の若返りが必要です。その目的もあつて、年に何回か実施するイベントには、地元の若い世代に声を掛けて、できるだけ参加してもらおうようにしています。

また、地区の若手の奥様たちには、直売所横にある菓子の加工所を有効活用して、ケーキ・パン・クッキーといった商品を直売してもらおうというプラン



も温めています。空きスペースもあるので、地元主婦によるフリーマーケットの定期開催というの也有可能だと思います。

いずれにしても、地域の活動拠点として、一人でも多くの地区住民が直売所に関わって、地域ぐるみで盛り上げていくことが重要。その姿を目指して、あせらずじっくり、努力していきたいと考えています。

◆明木地区の季節の野菜や加工品の詰め合わせを「農産物加工販売所つつじ」から直送で、3 名様にプレゼントします。申込方法は 15 ページ。

農産物加工販売所つつじ
(0838・55・5031)

山口県立萩美術館・
浦上記念館だより
(☎0838・24・2400)

第1回山口県総合芸術文化祭

現在形の陶芸 萩大賞展

1月14日まで

船崎透さんが優秀賞受賞

岩崎真理子さん佳作

12月15日から行われている「現在形の陶芸 萩大賞展」で、萩市の陶芸家 船崎透さん（萩市後小畑在住、43歳）が優秀賞を受賞、岩崎真理子さん（萩市玉江在住、53歳）が佳作を受賞しました。

国内外から153人、203点の応募があり、萩大賞1点、準大賞1点に次ぐ優秀賞3点のうちの1点に船崎さんの作品が選ばれ、佳作5点のうちの1点に岩崎さんの作品が選ばれました。

船崎さんは、1964年島根県生まれ。陶芸家である父の都合で萩市白水小学校、越ヶ浜中学校へと進学後、九州へ引っ越しました。その後、84年山口芸術短期大学を卒業し、第12代三輪休雪に師事します。現在は萩市後小畑の船崎窯にて作陶されています。

今回の作品『白萩流紋皿揃』について、「曲線を大切にしながら、釉薬を活かした、凛とした作品を作ったかった」という船崎さん。



『白萩流紋皿揃』



▲『シャボン玉飛んだ』



船崎透さん



岩崎真理子さん

萩陶芸の伝統—継承と革新—

1月22日～3月2日

三輪休和、三輪栄造など江戸時代からの伝世品や現代作家の作品を紹介します。

▽観覧料 一般250円、学生200円

▽開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

▽休館日 月曜日（ただし1月14日は祝日のため開館）、

12月25日～1月1日、1月15日～21日

萩博物館だより

(☎0838・25・6447)

旅する考古学者

宮本常一のまなざしを追って・萩

4月8日まで

4月8日まで

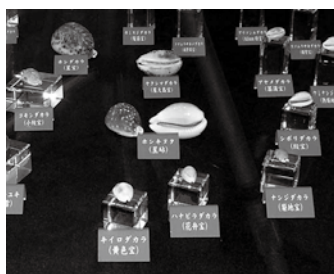
日本を代表する民俗学者である宮本常一（周防大島町出身、1907～81）は、60年から62年見島総合芸術調査、68、69年の阿武川ダム水没地域の緊急民俗調査に携わり、旧萩市、見島、旧六島村、旧

川上村、旧福栄村に足跡を残し、2000枚に及ぶ記録写真を撮影しています。今回の企画展では、60年代に撮影した萩地域（旧萩市、見島）の写真群の一部250枚を紹介。

新たにオープン！ いきもの発見ギャラリー

11月に、自然系の常設展示室「いきもの発見ギャラリー」がオープンしました。

中でも目玉は、夏の企画展「君と竜宮城へ」で人気を呼んだ全長3mのダイオウイカの標本の常設展示です。



▲宝石のように輝く海の巻貝・タカラガイ。萩で見つけた26種類を展示



▲ダイオウイカの標本を常設展示しているのは全国で4館。ソファに寝そべて記念撮影ができます

情報アラカルト

関東地区

■工芸の力・21世紀の展望

人間国宝の三輪壽雪をはじめ、新しい造形を生み出す14人の作家が出演。

2月17日(日)まで

東京都千代田区北の丸公園1・1
東京国立近代美術館工芸館
(03・5777・8600)



三輪壽雪
鬼萩割高台茶碗 (2006)

■西端峰苑書作展「めぐる春」

9月にモスクワ芸術博覧会で日口国際優秀大賞を受賞した西端順子さん(大阪府在住、萩高18期旧姓岡村)の個展。

1月11日(金)～14日(月・祝)

東京都港区南青山2・11・15セピア絵画館

H・A・C・ギャラリー

(03・5772・6225)

■三輪和彦作陶展

・白き地の詩・

1月15日(火)～21日(月)

東京都中央区日本橋室町1・4・

1 日本橋三越

(03・3241・3311)

■岡田裕作陶展

1月23日(水)～28日(月)

東京都立川市曙町2・39・3
高島屋立川店

(042・525・2111)

■美しい手工芸の世界・東京展

・日本手工芸指導協会作品展・
アートフラワーやアート盆栽、萩人形などの指導をしている岡野芳子が出展。

1月29日(火)～2月3日(日)

東京都台東区上野公園8・36
東京都美術館

(03・3823・6921)

■伝統的工芸品展

WAZA2008

萩焼をはじめとする日本の伝統的工芸品が一堂に会し、展示・販売。

2月28日(木)～3月4日(火)

東京都豊島区西池袋1・1・25
東武百貨店池袋店

(03・3981・2211)

■下瀬信雄写真展「結界Ⅵ」

3月11日(火)～24日(月)

東京都新宿区西新宿1・6・1
新宿エルタワー28階

新宿ニコンサロン

(03・3344・0565)

中国地区

■次代を担う萩焼新鋭作家3人展

若手陶芸家 岡田泰、兼田知明、吉野桃李が出演。

1月31日(木)～2月6日(水)

島根県松江市朝日町661
一畑百貨店松江店

(0852・55・2500)

■岡田裕作陶展

2月19日(火)～25日(月)

広島県呉市西中央1・1・1
そごう呉店

(0823・27・2111)

■おいでませ山口館(広島)

「08年萩からの贈り物」

椿の咲き誇る萩へおいでませ！

椿まつりにあわせ、萩焼、瀬付きあじ、夏みかんマーメイドなど萩の特産品を販売。1000円以上購入された方にプレゼント進呈。

2月14日(木)～19日(火) 午前10時～午後6時

広島市中区紙屋町2・2・2
おいでませ山口館(広島)

(082・504・7001)

四国地区

■ラインズ・線・

金子司(陶芸)、田村覚志(線画)ら全国の若手アーティストが線をテーマに出展。

1月11日(金)～14日(月・祝)

香川県善通寺市大麻町338
灸まん美術館

(0877・75・3000)

萩市関係

■2008 藤崎恒頼新作油彩展

1月17日(木)～22日(火)

萩市江向440・1
萩郵便局コミュニティルーム

(0838・22・0681)

■萩城下の古き雛たち

2月3日(日)～4月3日(木)

萩市呉服町1 旧久保田家住宅(菊屋家住宅向かい)

萩市観光課

(0838・25・3139)

■彩陶庵の企画展

工藤茂喜展「漆」

3月8日(土)～16日(日)

萩市呉服町1・3
彩陶庵ロフト

(0838・25・3110)

■俣宿天十平の企画展

・新春のみの市

萩焼をはじめ、器や洋服などの掘り出しセール。

2月2日(土)～24日(日)

・清水善行うつわ展
京都で作陶する若き実力家の個展。熊本県出身

3月29日(土)～4月9日(水)

萩市南古萩町33・5
俣宿天十平

(0838・26・6474)

■ヴィレッジコンサート

稚吉敏子(ピアノ)とルー・タバキン(サクソ、フルート)の夫婦デュオ。至近距離ライブは贅

沢の極みです

第54回日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、玉村登陽、野坂和左、波多野善蔵、波多野英生の作品が展示されます。

高松展 1月2日(水)～20日(日) 香川県文化会館

広島展 1月23日(水)～2月11日(月・祝) 広島県立美術館

福岡展 2月13日(水)～18日(月) 福岡天神岩田屋

松山展 2月23日(土)～3月2日(日) 三越松山店

5月30日(金) 午後7時30分と午後9時15分の2回公演
料金 8500円
萩市土原291・1 ヴィレッジ
(0838・25・6596)

テレビ・ラジオ情報

■魚王

俳優・松方弘樹と梅宮辰夫が昨年11月に見島沖で、クロマグロ釣りに挑戦しました。

放送予定日 1月16日(水) 午後7時～9時

放送局 全国TBS系列

■NHKラジオ公開生放送

「鎌田實いのちの対話」

明治維新140年を記念して、萩から全国へ生放送でお届けしま

す。鎌田實（長野県諏訪中央病院
名誉院長）、小菅正夫（旭山動物
園長）ほか

放送予定日 1月14日（月・祝）
午前9時5分～11時30分
放送局 NHKラジオ第1放送

出版情報

■明屋書店（首都圏店舗）で萩関
係書籍のブックフェア開催

ブックレットシリーズ萩ものが
たり（全16タイトル）を中心に、「長
州ファイブ物語・ますらをたちの
旅」や「晋作蒼き烈日」など、萩
関連の書籍を集めたブックフェア
が開催されます。

▽1月4日（予定）～2月下旬
明屋書店・東京中野店
東京都中野区中野5・52・15

中野ブロードウェイ3階

（03・3387・8451）

▽3月上旬～4月下旬

明屋書店・五反田店

東京都西五反田1・3・8

五反田御幸ビル1階

（03・3492・3881）



プレゼント

①明木地区の季節の野菜や加工品
の詰め合わせを3名様に

②萩博物館から、ペア入館券、タカ
ラガイ携帯ストラップ、筋名まち歩
きマップをセットにして3名様に

応募方法 ハガキに住所、氏名
電話番号、近況などを明記のうえ
萩ネットワーク協会プレゼント係ま
で。締切は1月31日

萩ネットワーク協会年会費3
年分で500円割引

萩ネットワーク協会では、1月
から、年会費を3年分まとめてお
支払いされた方の年会費を割引引
く特典を始めます。

長期会員への特典 一般会員の
3年分の年会費6000円を
5500円に（500円割引）
（郵便振替のみの扱いとなります）

ふるさと納税制度が創設されます

萩市に寄附された場合、居住地の住民税が軽減されます。

与党の平成20年度税制改正大
綱にふるさと納税制度が盛り込
まれました。現在国において具
体的な取り決め作業が行われて
います。

具体的な内容がわかり次第
寄附の手続き方法などをお知ら
せしますので、その節はご協力
のほどよろしくお願いします。

【現在の取り組み】

萩市では現在「萩市元氣なふ
るさと創出寄附顕彰条例」を制
定し、寄附を募り、寄附者に対
して顕彰しています。

【今後の取り組み予定】

萩は全国で唯一「江戸時代の
地図がそのまま使えるまち」と
言われるほど、城下町のたたず

まいが都市遺産となつて今日ま
で継承されています。
萩市では、まちじゅうを博物
館としてとらえ、この都市遺産
を保存整備・活用する取り組み
として「萩まちじゅう博物館構
想」を推進しています。
この度の「ふるさと納税（寄
附）制度」の創設にあわせ、こ
の「萩まちじゅう博物館推進事
業」をはじめ、具体的な政策目
的などに対して全国から寄附を
募集する予定です。
※萩市ホームページで、ふるさ
と納税制度に関するアンケート
を行っています。皆さんからの
ご意見をお寄せください。
萩市企画課（25・3117）

萩・椿まつり

約2万5000本のヤブツバ
キが咲き誇る笠山椿群生林で、2
月16日（土）から「萩・椿まつり」
が開幕します。

昨年2月に完成した高さ13mの
展望台からは、広大な椿群生林と
遠くに浮かぶ美しい島々を小鳥の
目線で眺めることができます。12
月20日に開花宣言しました。

■とき 2月16日（土）～3月20
日（木・祝）

■ところ 萩市笠山椿群生林

■主な内容 ▽初日と日曜日・祝
日Ⅱ郷土芸能披露、抹茶席、椿グッ
ズの販売など

■問い合わせ 萩市観光課
（0838・25・3139）

椿見どころ案内人によるガイド

椿の開花期間中の3月下旬まで、
椿群生林内の見どころポイントを
ご案内します。

■申込方法 予約制（交通費とし
て1000円必要）

※椿まつり期間中の土・日曜日、
祝日（午前10時～午後4時）は、
まつり本部（椿群生
林内）で随時受付。

■申し込み

萩観光ボランティア

協会（0838・25・3527）



見島は野鳥の宝庫

(本文6ページ)



セイタカシギ

背高鷗

(学名 Himantopus himantopus)

チドリ目セイタカシギ科に分類される鳥。日本で見られるものは多くが本亜種またはオーストラリアセイタカシギである。



ヤマショウビン

山翡翠 (学名 Halcyon pileata)

ブッポウソウ目・カワセミ科に分類される鳥。鮮やかな体色のカワセミの仲間、日本ではまれに記録される。



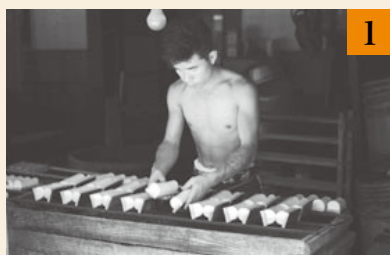
ヤツガシラ

八頭 (学名 Upupa epops)

ヤツガシラ目 ヤツガシラ科。ユーラシア大陸・アフリカ大陸に生息する。日本では少数が迷鳥もしくは冬鳥として渡来する。

萩博物館

「宮本常一のまなざしを追って・萩」展から



1 萩かまぼこ カマボコを焼く (昭和 35.8.1)

板カマボコを焼いている店があって、声をかけてみたら東京の三越に送っているのだという。このカマボコは味の上では日本一だという。「まあ食べてみなさい」といって二本くれた。(*)写真は旧大竹蒲鉾店 (平成12年まで営業)、上半身裸の若者は故柳井一利さん。



2 古い町の面影

看板が道に対して直角にあげてある昔風のものが多かった (昭和 35.8.1)

看板は近頃、家の小屋根に大きなものをべったりと張り付けたようにしてあるものが多いのだが、家の正面には直角にかかげたものが目につく。質屋も料理屋もそうした看板をあげている。(*)



3 二段の池 水落しの日 見島宇津 (昭和 37.8.29)

宇津は川らしい川のないところで、この落水水がいちばん豊富な水量で、水落しのときは村の女たちは水の落口のところへ集まって洗濯をする。子どもたちは水遊びをする。水のほとりにたくさんの人たちが入れかわり、たちかわりして談笑しながら一日中洗濯が続く。(*)



4 島の子ども 天下泰平の夢 海の子はこうして育つ 見島宇津 (昭和 37.8.29)

漁網の上で昼寝する男の子、すぐ下は波立つ海、写真の左隅には帽子をかぶった撮影者(宮本)の影も映っている。多分この時、宮本は笑顔を浮かべながらファインダーを覗いていたであろう。写っているのは宇津在住の北国一行さん、建網を仕掛けに行く船の上でうたた寝しているところだろう。

*宮本常一著「私の日本地図 13 萩付近」(同友館、絶版) から

■人の動き(平成19年11月末日)

萩市:人口/57,607人 男/26,501人 女/31,106人 世帯数/24,573世帯

阿武町:人口/4,103人 男/1,822人 女/2,281人 世帯数/1,628世帯